

2022年3月期第2四半期 決算説明

2021年11月8日
いすゞ自動車株式会社

説明内容

1. 全体総括
2. 2022年3月期上期実績及び通期見通し
3. Q&Aセッション

本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するものを除いては、現時点で入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定及び判断に基づくものです。従いまして、かかる仮定及び判断に含まれる不確定要素や将来の経済環境の変化などを含む種々の要因によって影響を受ける可能性があり、ゆえに、当社の将来の業績、経営結果等と異なる結果をもたらす可能性があります。

1. 全体総括

取締役専務執行役員
経營業務部門、
企画・財務部門統括

南 真介

全体総括①

1. '22年3月期上期実績

- 海外市場回復を受け、新型コロナ感染拡大前を上回る販売を記録。
- 上期として、売上高、各利益項目、いずれも過去最高。
- アセアン地域からの部品調達には苦戦、VOLは期初想定を下回る。
- 損益は、為替好転・合理化・費用の減少・後ろ倒れにより、想定を上回った。

2. '22年3月期見通し

- 海外市場は、多くの地域でコロナ感染拡大前の水準まで回復。
- 現地在庫不足も相まって、海外CVについては、過去最高の要求VOL水準。
- 一方、部品調達は苦戦続き、見通しは不透明。
- CV・LCV共に販売要求に応えきれず、売上高は期初想定と同水準を見込む。
- 損益は、原材料価格及び物流コストのさらなる悪化を、為替環境好転、費用削減及び合理化追加でカバー。
- 通期の利益見通しは変更せず。

経營業務部門、企画・財務部門統括の南でございます。

まずは全体を統括致します。

当上期は、海外市場では、新型コロナ感染拡大前を上回る販売台数を記録いたしましたが、半導体やコロナ禍による、部品調達での遅れにより、生産の影響がございました。しかしながら、損益では、為替の好転、合理化、費用面での改善により、期初想定を上回る業績となりました。

売上高・営業利益・経常利益・当期利益は、上期としては過去最高となります。

下期は、海外の多くの地域で、需要がコロナ感染拡大以前の水準に回復してきたことに加え、現地在庫不足も解消されておらず、堅調な国内需要とも合わせ、過去最高の生産要求台数レベルが続きます。

他方、コロナや半導体供給問題に起因した部品調達の不安定さは続いており、改善の兆しは見えてきたものの、現段階では、日本のCV、タイのLCV生産共に、販売要求に応えきれない状況であり、この解消は来期に先送りせざるをえない見込みでございます。

このため、通期の見通しについては、旺盛な需要が続く中ではありますが、部品調達のリスクも勘案し、売上高は期初想定と同水準に据え置くことといたしました。

損益についても、下期にかけ、期初想定を大幅に上回る、原材料価格や物流コストの上昇がありますが、為替好転、費用削減、合理化にてカバーし、現時点での、利益見通しの変更はございません。

3. サプライチェーン混乱による影響

	上期実績	下期見通し
日本	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア新型コロナ感染拡大により、ベトナム製生産用部品の供給に支障 小型トラックに減産影響発生 	<ul style="list-style-type: none"> 現地感染拡大収束により、ベトナム製生産用部品調達の正常化に目途 センサー部品用の半導体供給が不足、高い販売要求VOLあるも応えきれず
タイ	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア新型コロナ感染拡大により、マレーシア製半導体使用品の供給に支障 タイにおける感染拡大により、十分な工場要員確保に苦戦 新型LCVに減産影響発生 	<ul style="list-style-type: none"> 現地感染拡大収束により、半導体供給不足は改善の兆し 上期減産を挽回できるまでの数量確保は見通せず

サプライチェーン混乱による影響について、ご説明いたします。

当上期は、日本の工場生産は、主にベトナム製部品の調達に支障が生じた結果、8月に小型トラック組立ラインの稼働を一時的に停止するなど、減産影響が発生しております。

タイの工場生産では、マレーシア製半導体供給不足、タイ工場のコロナによる要員確保問題など、新型LCVにも減産影響がございました。

2022年3月期の見通しでは、日本向けのベトナム製部品の調達には目途がついたものの、センサー用部品の半導体供給不足があり、海外市場からの高い要求ボリュームに応えきれない状況となっております。

タイでは半導体供給不足は正常化の方向にあるものの、上期の減産を挽回できるまでの数量確保は見通せない状況でございます。

全体総括 '22年3月期上期実績

グローバル販売台数(千台)		'22/3上期	'21/3上期	対前年比増減		'20/3上期
CV計	国内CV	33	33	+0	+1%	45
	海外CV	128	77	+51	+66%	106
	UDトラックス	8	-	+8	-	-
CV計		169	110	+59	+54%	151
LCV計	タイLCV	71	55	+16	+31%	70
	輸出LCV	92	50	+42	+82%	76
	LCV計	163	105	+58	+55%	146
合計		332	215	+117	+54%	297
決算実績(億円)						
売上高		11,451	7,929	+3,522	+44%	10,201
営業利益		973	168	+805	+479%	714
経常利益		1,066	170	+896	+529%	735
当期利益		711	▲17	+728	-	398

2022年3月期上期実績は、グローバル販売台数が33万2千台、前年同期比54%増となりました。

この台数は、新型コロナウイルスの感染拡大前の2020年3月期上期、すなわち2年前の29万7千台をも上回る結果となりました。

売上高は、1兆1,451億円、営業利益973億円、経常利益1,066億円、当期利益は711億円であり、上期としてはすべて過去最高となりました。

全体総括 '22年3月期見通し



グローバル販売台数(千台)		'22/3期 見通し	'22/3期 前回見通し	対前回見直し比 増減		(参考) '21/3期	(参考) '20/3期
CV計	国内CV	69	77	▲8	▲11%	70	81
	海外CV	263	246	+17	+7%	190	208
	UDトラックス	18	16	+2	+12%	-	-
CV計		350	339	+11	+3%	260	289
LCV計	タイLCV	167	179	▲12	▲7%	151	163
	輸出LCV	213	216	▲3	▲1%	144	148
LCV計		380	395	▲15	▲4%	295	311
合計		730	734	▲4	▲1%	555	600
決算見通し(億円)							
売上高		25,000	25,000	売上高・利益・配当 の見通しは据え置き		19,082	20,799
営業利益		1,700	1,700			957	1,406
経常利益		1,750	1,750			1,043	1,509
当期利益		1,100	1,100			427	812
1株当たり配当		58円	58円			30円	38円

2022年3月期見通しについては、すでにお話しました状況の中で、

日本・タイ、CV・LCVの生産について、半導体不足・コロナによる東南アジアでのサプライチェーンの混乱影響を、最新の供給状況にて見直しを行いました。

この結果、海外向けCVの生産は増加するものの、国内CV及びLCV生産台数の見通しを期初想定よりも引き下げました。

原材料価格、物流費の上昇は、期初想定を上回りますが、為替の好転、原価低減活動の推進によりカバーいたします。

決算の見通しは、前回と変わらず、売上高2兆5千億円、営業利益は1,700億円、経常利益は1,750億円、当期利益は1,100億円となります。

配当予想は、年間58円を据え置きます。

私からのご説明は、以上でございます。

詳細は、中俣より、ご説明いたします。

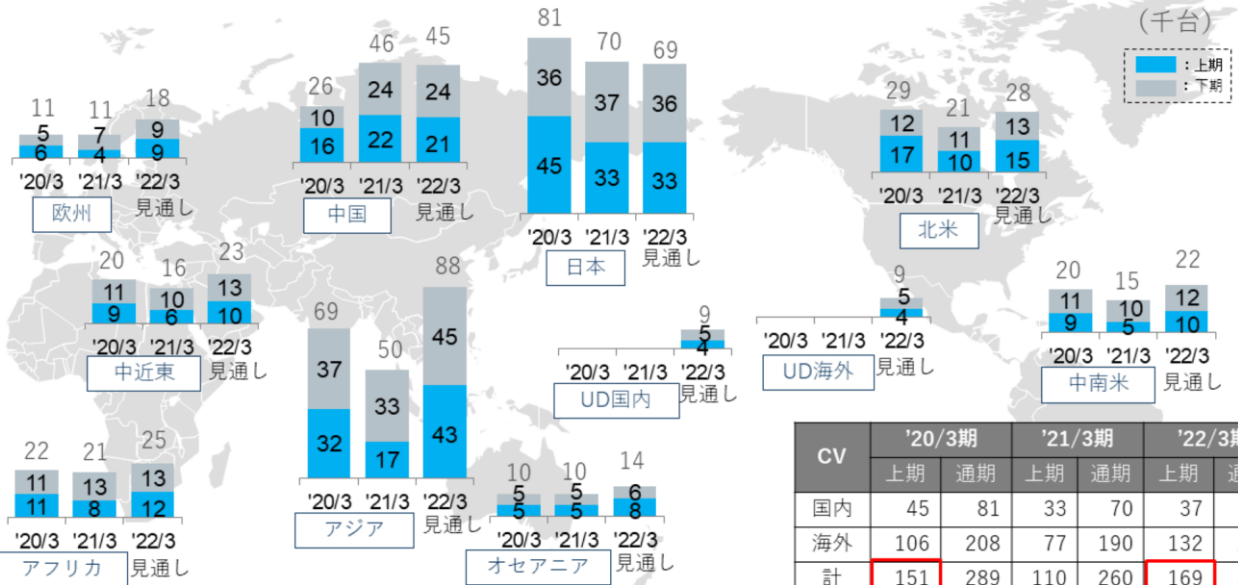
常務執行役員
企画・財務部門統括代行、
グループCFO

中俣 直人

2. 2022年3月期上期実績及び通期見通し

CVグローバル販売台数①

- 上期は8月以降に部品供給が滞るも、多くの地域でコロナ前の販売台数を上回る
- 国内は、'20/3期に排ガス規制切替前駆け込み需要があったため、コロナ前の販売台数を下回る



CV	'20/3期		'21/3期		'22/3期*	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
国内	45	81	33	70	37	78
海外	106	208	77	190	132	272
計	151	289	110	260	169	350

10 *国内CV：国内卸売・直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷
 *UDは4月～6月の損益・販売台数を連結P/Lに反映
 *国内/海外にはそれぞれUD国内/UD海外の台数を含む
 Copyright(C) 2021 Isuzu Motors Limited All rights reserved

企画・財務部門統括代行の中俣でございます。

続きまして、CVグローバル販売台数について、ご説明いたします。

上期のCVグローバル販売は、UDトラックスの台数を含めて先期比5万9千台増の16万9千台となりました。

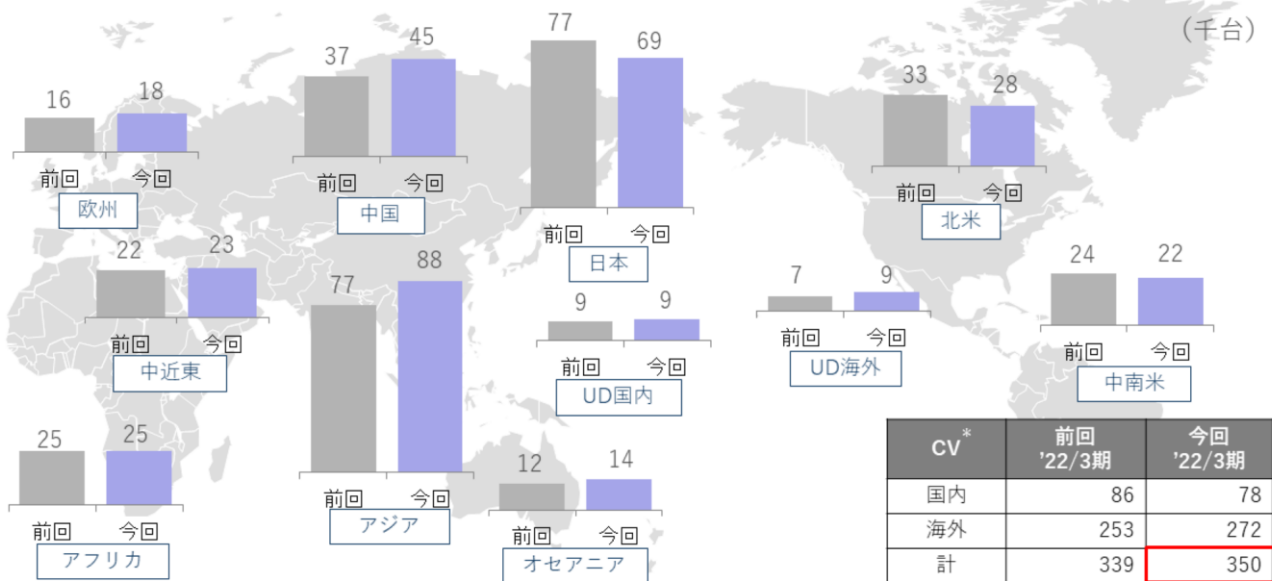
内訳は、国内は先期比4千台増の3万7千台、海外は先期比5万5千台増の13万2千台でございます。

今回、UDトラックスの4月～9月の販売台数を標記しておりますが、第2四半期の連結損益には含まれるのは4月～6月の業績でございます。

期初想定よりも各市場の回復は早く、海外を中心に想定よりも多くの受注をいただいています。8月以降は部品供給が滞ったものの、上期のCVグローバル販売台数は日本・北米を除く全ての地域で、新型コロナ前である2年前を上回りました。日本は、2年前に排ガス規制の駆け込み需要がございました。北米は、足元の需要は旺盛であるものの、現地物流の混乱により製品が市場に届かない状況でございます。

CVグローバル販売台数② 通期見通し（5月公表値との比較）

- 海外市場は多くの地域で想定より好調、前回公表値よりも台数増
- 部品調達の問題から全ての需要に対応できず、特に国内・北米は、半導体不足の影響により引き下げ



*国内CV：国内卸売・直納、海外CV：北米/豪州は現地DB卸売、その他地域は日本出荷
 *UDは4月～6月の損益・販売台数を連結P/Lに反映

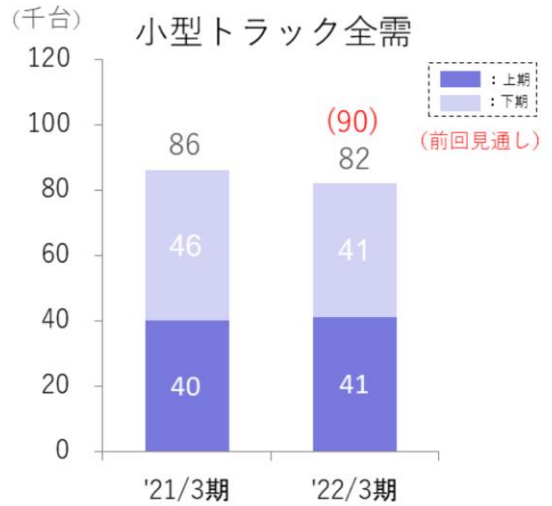
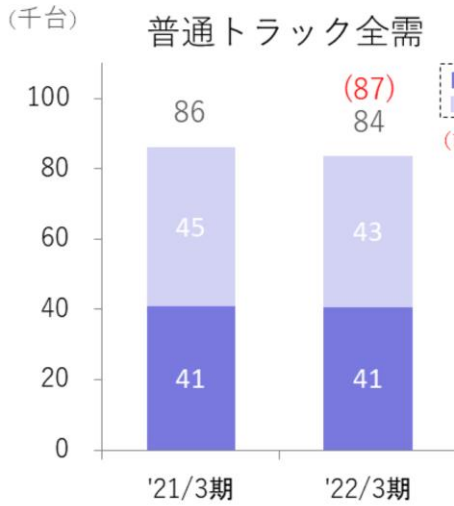
*国内/海外にはそれぞれUD国内/UD海外の台数を含む
 Copyright(C) 2021 Isuzu Motors Limited All rights reserved

こちらは、5月の公表値との比較でございます。

通期見通しにつきましては、アセアン地域からの半導体供給が滞っている状況を反映しており、すべての需要に対応できていないものの、多くの地域で前回の公表値を上回っております。国内・北米については半導体不足の影響が大きく、台数を前回公表値から引き下げております。

国内全需・シェア実績 -普通トラック/小型トラック-

■ 上期の全需及びシェアは普トラ・小トラ共に先期並み、下期の全需は足元の生産状況を鑑み減少を見込む



上期	いすゞ	'21/3期	'22/3期
シェア	UDT	33.8%	33.5%
		(10.3%)	10.6%

上期	いすゞ	'21/3期	'22/3期
シェア		41.3%	41.0%

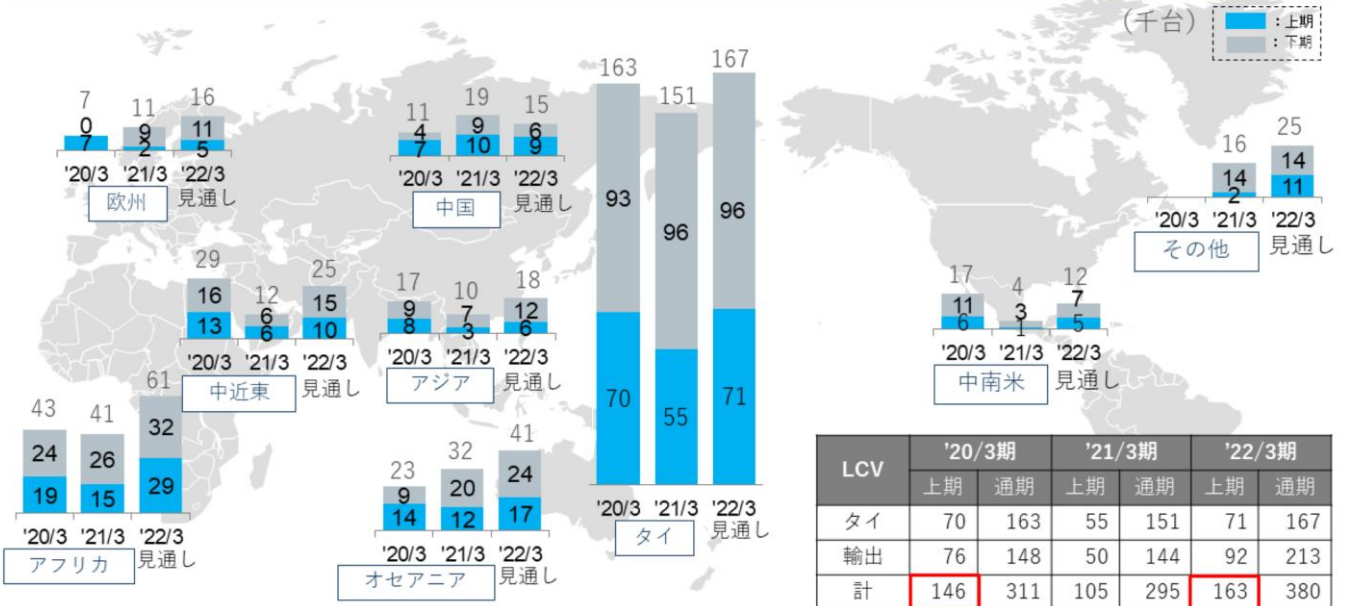
国内の状況です。

普通トラックの上期の全需は4万1千台と先期並み、シェアも先期並みの33.5%となりました。通期の全需見通しは足元の生産状況を考慮し、期初の8万7千台から8万4千台に引き下げました。なお、UDトラックスのシェア10.6%も、先期並みとなっています。

小型トラックの上期の全需は先期比1千台増の4万1千台と、先期並みで推移いたしました。通期の全需見通しは足元の生産状況を考慮し、期初の9万台から8万2千台に引き下げました。

LCVグローバル販売台数①

■ 上期は、コロナ前の'20/3期を上回るグローバル販売台数を記録も、半導体不足の影響を受ける



13 *LCV：タイ出荷

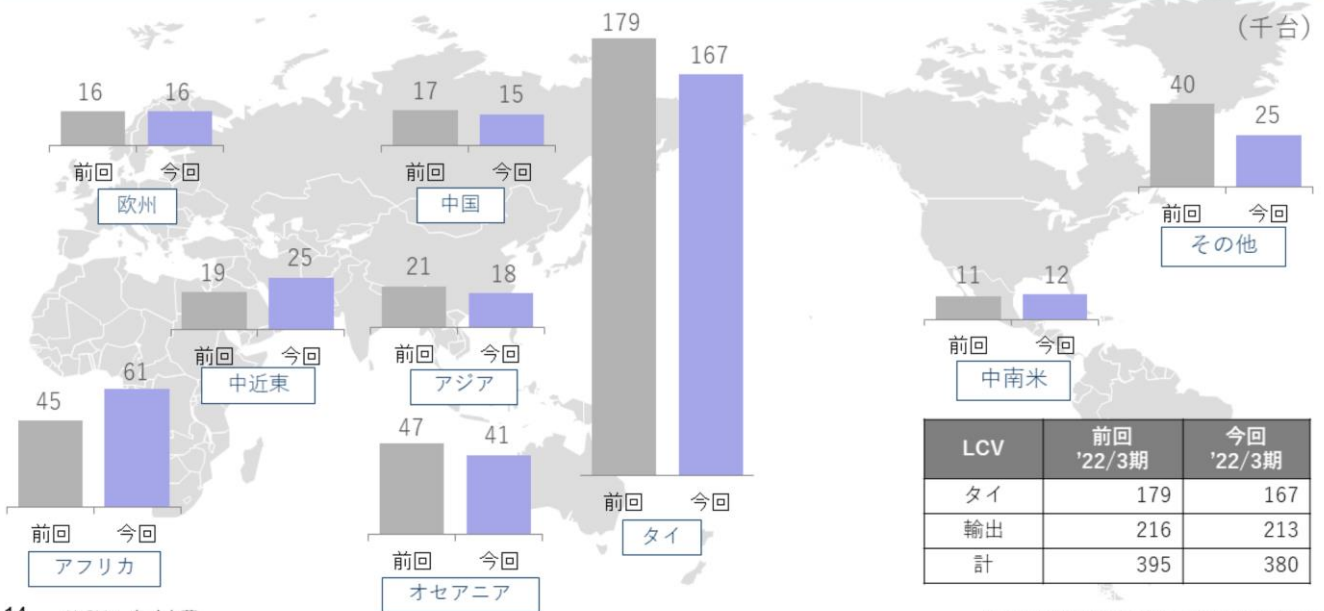
Copyright(C) 2021 Isuzu Motors Limited All rights reserved

LCVグローバル販売台数でございます。

上期のLCVグローバル販売は、半導体不足による生産制約を受けたものの、市場が想定より早く回復していることに加え、先期に工場を稼働停止していたこともあり、先期比5万8千台増の16万3千台となりました。タイは先期比1万6千台増の7万1千台、輸出LCVは市場の回復に加えOEM供給が本格化したこともあり、先期比4万2千台増の9万2千台となっています。タイ、輸出共にコロナ前の水準を上回っております。

LCVグローバル販売台数② 通期見通し（5月公表値との比較）

■ 半導体不足による影響を受け、新型LCVを販売する多くの地域で、通期見通しを引き下げ

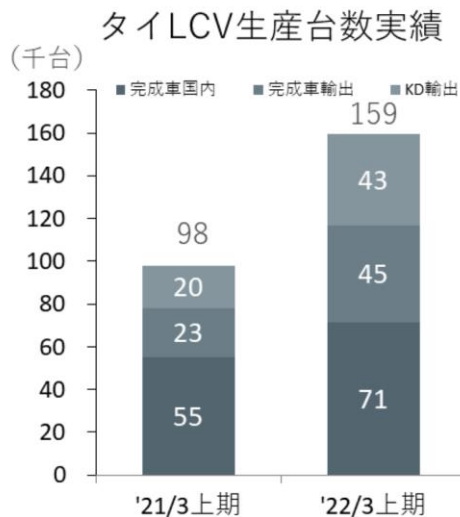
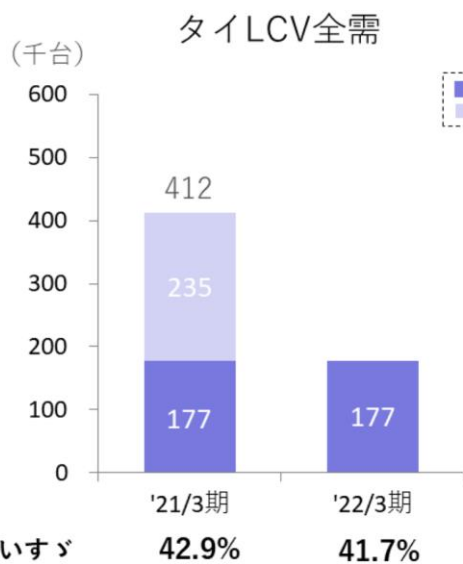


こちらは、5月の公表値との比較です。

通期見通しは、半導体不足の影響が下期も継続していることから、上期の減産影響を挽回しきれず、期初の台数から引き下げております。一方、ロックダウンで出荷している旧型モデルに関しては大きな供給制約を受けておりません。全体としては前回の公表値からタイで1万2千台、輸出で3千台引き下げております。

タイLCV全需・シェア/LCV生産台数実績（4-9月）

- タイLCV全需は、4~7月は順調に推移も、8月の新型コロナ感染拡大を受け不透明に
- LCV生産台数は、半導体不足影響はあるも、工場稼働停止期間のあった先期と比較し大きく増加



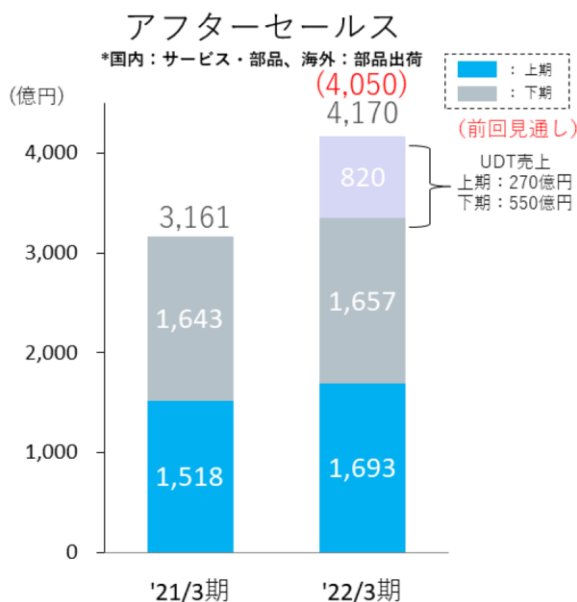
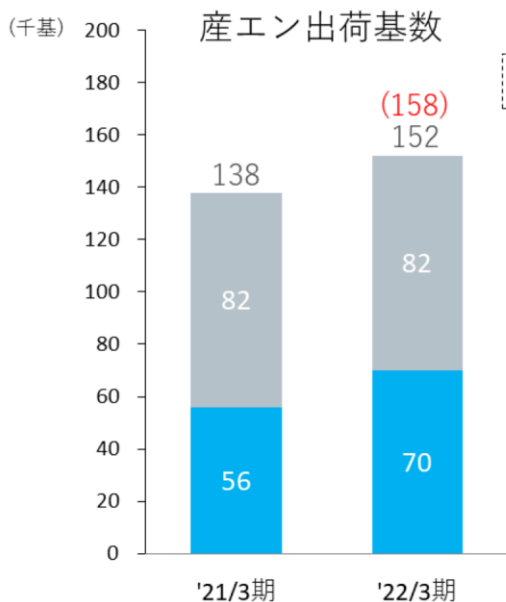
タイの状況でございます。

タイLCVの上期全需は先期並みの17万7千台となりました。シェアは先期から減少したものの、40%台を維持しております。全需は、4月から7月までは順調に推移したものの、8月には新型コロナ感染拡大を受け大きく減少いたしました。9月になり市場は戻ってきておりますが、不透明な状況が続いております。半導体不足による生産影響も考慮し、全需見通しは、未定とさせていただきます。

LCV生産台数は、半導体不足の影響を受けたものの、先期には工場の稼働を停止していたこともあり、先期比6万1千台増の15万9千台となりました。

産業用エンジン出荷/アフターセールス売上

- 産エン：中国建機需要の減速感を受け通期見通しを引き下げ
- アフターセールス：通期見通しは上期の海外部品増収を反映し引き上げ



産業用エンジン出荷及びアフターセールス売上でございます。

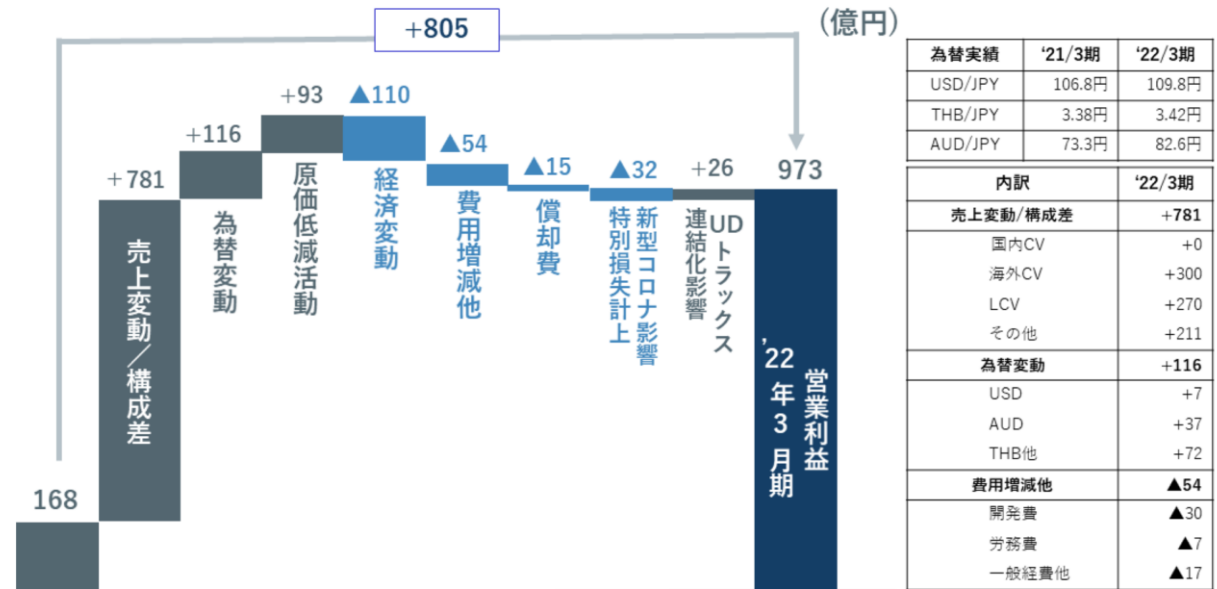
上期の産業用エンジン出荷基数は先期比1万4千基増加の7万基となりました。一方、通期の見通しは、中国の建機需要が足元で減速傾向が見られることを受け、6千基減少の15万2千基に引き下げました。

アフターセールス売上について、いすゞの上期は、先期から175億円増加の1,693億円となりました。海外ディーラーの現地部品在庫積上げにより、売上が増加しています。また、UDトラックスは、4月から6月の売上270億円を取り込んでおります。

通期見通しは、いすゞ分について、上期の海外部品の増収を反映し、引き上げます。また、UDトラックスは、4月から12月の売上820億円を計画しております。

'22年3月期上期営業利益 増減分析 -前年同期比-

- 部品供給不足、原材料高騰の影響あるも、VOL増加、為替変動、原価低減活動により大幅に増益
- 第2四半期からUDトラックの連結化影響が発生



17 営業利益 '21年3月期

Copyright(C) 2021 Isuzu Motors Limited All rights reserved

2022年3月期 上期営業利益実績の前年比増減分析でございます。

主な増益要因は売上変動/構成差が+781億円、為替+116億円、原価低減活動+93億円となりました。また、第2四半期からUDトラックの連結化影響が発生しており、+26億円となりました。

主な減益要因は経済変動▲110億円、償却費が▲15億円、費用増減他が▲54億円、先期に計上した新型コロナウイルス感染拡大に関わる特別損失の振替分で▲32億円となりました。

期初見通しとの比較では、売上は部品供給不足の影響を受け想定を下回りましたが、利益は為替の好転、原価低減活動、費用の減少・後ろ倒しにより見通しを上回る結果となりました。

為替実績は表に記載した通りでございます。

'22年3月期上期実績 - 前年同期比 -

(億円)	'22/3上期	'21/3上期	対前年比増減	
売上高	11,451	7,929	+ 3,522	+44%
営業利益	973	168	+ 805	+479%
経常利益	1,066	170	+ 896	+529%
当期利益*	711	▲ 17	+ 728	-

当期利益*	経常利益	1,066
	固定資産売却損等	▲9
	法人税等	▲211
	非支配株主に帰属する当期純利益	▲135
	当期利益*	711

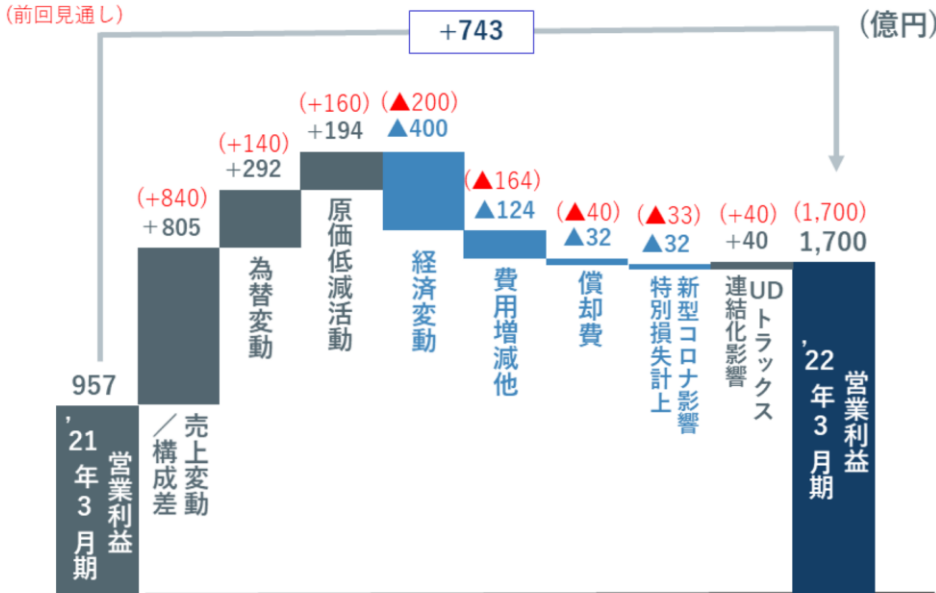
*親会社株主に帰属する当期純利益

経常利益と当期利益の段差の説明でございます。

当期利益は、経常利益1,066億円から固定資産売却損、法人税等、及び非支配株主に帰属する当期純利益を差し引き、711億円となりました。

'22年3月期営業利益見通し 増減分析 -前年同期比-

■ 半導体不足に加え、原材料価格、物流費の高騰が想定以上となるも、為替の好転、原価低減活動の推進でカバー、通期見通しを据え置く



為替	'21/3期	'22/3期
USD/JPY	106.0円	109.9円
THB/JPY	3.42円	3.41円
AUD/JPY	76.2円	82.3円

内訳	'22/3期
売上変動/構成差	+805
国内CV	▲70
海外CV	+388
LCV	+300
その他	+187
為替変動	+292
USD	+41
AUD	+64
THB他	+187
費用増減他	▲124
開発費	▲80
労務費	▲25
一般経費他	▲19

'22年3月期 営業利益見通しの増減分析です。

主な増益要因は、売上変動／構成差が+805億円、為替変動+292億円、原価低減活動+194億円、UDトラックスの連結子会社化影響+40億円を見込んでおります。

主な減益要因は、原材料価格、物流費上昇に伴う経済変動▲400億円、費用増減ほか▲124億円、償却費▲32億円、先期に計上した、新型コロナ感染拡大に関わる特別損失の振替分▲32億円を見込んでおります。

原材料価格の高騰・物流費上昇が期初想定以上の減益要因となるものの、為替の好転、原価低減活動の推進でカバーいたします。海外市場は好調ですが、半導体供給が依然不透明であることを鑑み、営業利益は1,700億円に据え置きます。

為替の見通しは表に記載の通りでございます。

'22年3月期決算見通し - 前年同期比 -

(億円)	'22/3期	'21/3期	対前年比増減	
売上高	25,000	19,082	+ 5,918	+31%
営業利益	1,700	957	+ 743	+78%
経常利益	1,750	1,043	+ 707	+68%
当期利益*	1,100	427	+ 673	+157%

当期利益*	経常利益	1,750
	固定資産売却損等	▲30
	法人税等	▲380
	非支配株主に帰属する当期純利益	▲240
当期利益*		1,100

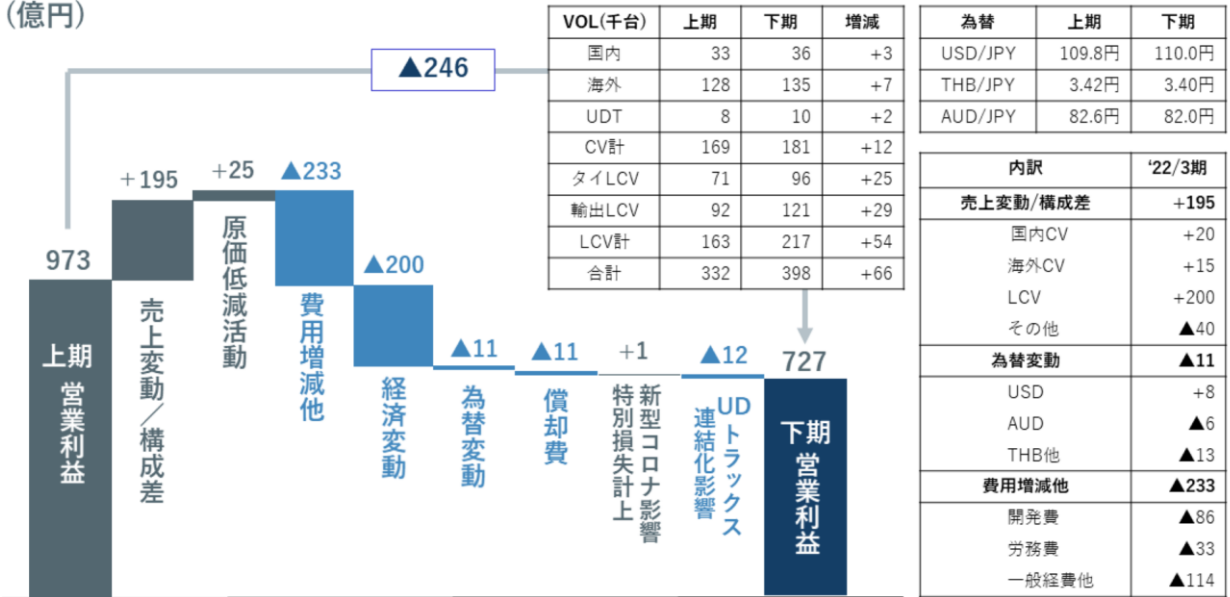
*親会社株主に帰属する当期純利益

当期利益は、経常利益1,750億円に加え、固定資産売却損▲30億円、法人税等▲380億円、非支配株主に帰属する当期純利益▲240億円を計上することにより、1,100億円を見込んでおります。

【参考】'22年3月期営業利益 増減分析 -上期下期比-

- 特にLCVのVOLが大きく増加するも、経済変動のマイナス影響大
- 開発費等の費用が下期に偏っていることに加え、上期に発生を予定していた費用の一部が下期に後ろ倒しされた

(億円)



最後に、'22年3月期の上期と下期の営業利益の段差の説明でございます。

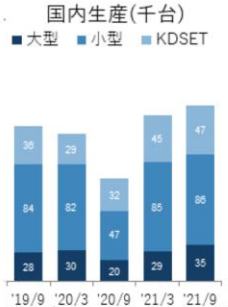
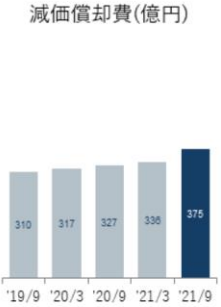
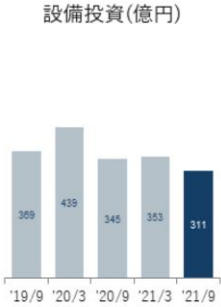
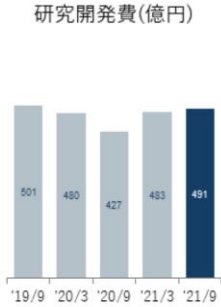
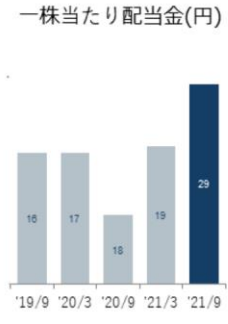
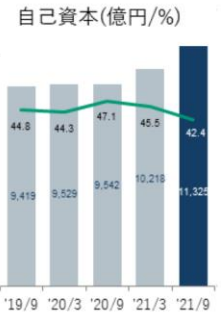
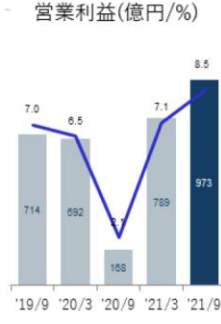
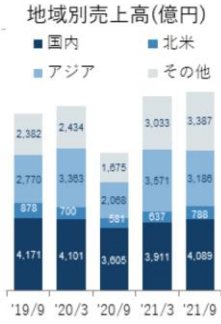
下期は、生産の挽回により特にLCVのボリュームが大きく増加するため、売上変動/構成差でプラスとなりますが、経済変動のマイナス影響が大きく、加えて、開発費等の費用が下期に偏っている上に、上期に発生を予定していた費用の一部が下期に後ろ倒しされております。下期の営業利益は、上期の営業利益に比べて246億円の減益となる727億円を見込んでおります。

私からのご説明は、以上でございます。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

【付表】 主要事業指標推移等(半期)



※'21/9はUDトラックスの生産台数も含む